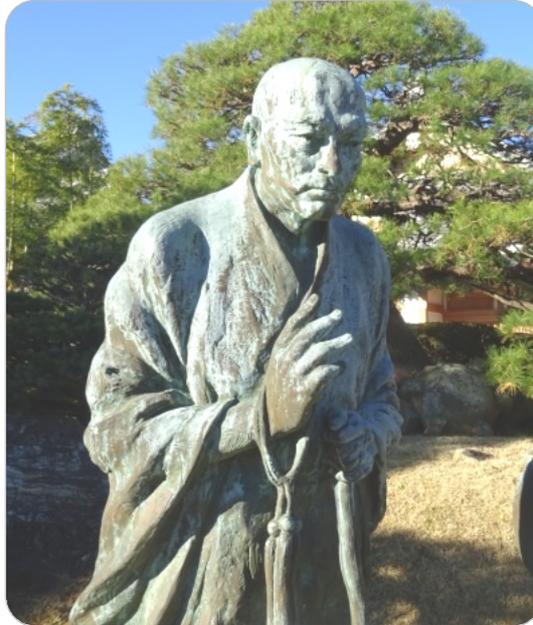


南無阿弥陀仏 ～人と生まれたことの意味をたずねていこう～

親鸞聖人と四歳の信蓮房を連れ、このお像は茨城県水戸市の信願寺に建てられています。親鸞聖人の厳しい決意をたたえたお姿に対して、疲れた子どもをいたわりつつもキリリとした恵信尼様のお姿には、聖人と歩みを共にせんと決断した迷いなき志念が窺えます。

「末代無知の在家止住」の私たちのための仏法が行証されていく夜明けが待っているのを感じます。



南無阿弥陀仏

「南無」と、わが心を懺悔して、いこう。  
「阿弥陀仏」と、大悲の本願を讃仰して、いこう。  
「南無阿弥陀仏」と、いのちの時をいただいで、いこう。  
新年にあたり、有縁の皆さまと、共に、  
「南無阿弥陀仏」と、念仏申させていただきます。

第二次世界大戦より76年、積もりに積もった矛盾がギンギシと音を立ててぶつかり合っている。今はもう「戦後」でなく、「戦前」ではなからうか。人間のエゴが、命のゆりかごである地球を傷め続けている。地球温暖化による洪水や干ばつ、あるいは新型コロナウイルスによるパンデミックは、傷ついた地球の悲鳴であろう。

戦争も異常気象もパンデミックも、誰かの所為ではない。それは自己自得というもので、エゴを顧みること忘れられた現代人がもたらしたものである。なんと、愚かなことであろうか。

ところで、こんな世界を生み出した現代人とは、いったい誰のことか。それは、ほかでもない。私たち一人ひとりのことである。

私の中に、「自分さえ、よければ、よい」「今さえ、よければ、よい」というエゴがうごめいている。もし、掌を合わせ、忘れたならば、エゴは暴走をはじめて行く。なんと恐ろしいことか。

まず、南無阿弥陀仏と掌を合わせ、頭を下げよう。  
そして、私の本当に望んでいるのは何か、よくよく考えてみよう。

人間の本当の願いは、何か？

私の本当の願いは、何か？

人間の本当の満足は、何か？

私の本当の満足は、何か？

今こそ、人間としてのスタート地点に立ち帰ろう。

御名を聞く会 (十月二十八日)

### 苦悩の有情をすてずして

松尾整子先生

(長崎市・元中学校長)

長崎県大村市にある真楽寺(浄土真宗本願寺派)の衆徒の松尾整子と申します。中学校の教員をしてきて、10年前に定年退職しました。

#### 如來の作願をたずぬれば

#### 苦悩の有情をすてずして

#### 回向を首としたまいて

大悲心をば成就せり  
という親鸞聖人の御和讃を味わせていただきたいと思つて参りました。

#### 「そうなノ、」

「愛」という字を開くと「受」と「心」と「ノ」となりますね。「心」で「受」け止めて「そうなノ、」というのが「愛」の字だと思ひます。

私が野母崎中学校に勤務していた時、一人の生徒とみつともなく、バトンをしました。その子が反抗するにはそれなりの事情があったのに、「そうだつ

たノ、」と受け止めきれなかつたんですね。

そんな時、東井義雄先生から「生徒の「ハイ」は「イエス」じゃないよ。「拝」と書くでしょ。生徒はあなたを拝んでくださっているんだよ」「拝まない者も拝まれている。拝まない時も拝まれている」と教えていただき、教室がとても尊くなりました。子どもたちに育てられているという価値観に変わり、私の生きかたの方向性が一変しました。この時の子どもたちとは今も親しくしており、癌で入院したら、手こずったその子が「先生の棺桶はオレが担いでやる」と言ってくれています。



60歳の時、腎臓に癌が見つかりました。4年前には肺癌になりました。そんな時、友人が「二人に一人は癌になる時代よ」とか「医学が進んでいるから癌なんかで死なんよ」とか言っ

#### 寄り添ってくださる

励ましてくれたけど、不安の中にいる私には「え？」という感じでした。「まだ私、若いのに」とか「これからどうなるのだろう」とか、言葉にできないような不安の中にいる私に寄り添ってくださったのは、若い時に出遇った、お念仏に生きられた先生のお言葉でした。

林暁宇先生からは、三味線婆ちゃんの「みんなおめでたさまのコースやけん」の言葉をいただきました。また鈴木章子さんの本を紹介してくださり、癌の手術で乳房を除去される時に作った「肉体」という詩、「あなたのおかげに初めて気づかされました。初めてのありがとう。遅ればせながらのありがとうを、今、言わせていただきます」に出会いました。

私をお念仏の教えに導いてくださった竹下哲先生は「整子ちゃん、お念仏ひとつよ」「身は借り物やけんね。置いていかんばとよ」と教えてくださいま

#### 父の念仏ーロクロック

父は念仏者というより、お念仏の心を生きたような人でした。多くの死傷者が出たビルマのインパール作戦の生き残りでしたが、父は戦争体験を語ろうとはしませんでした。

人間には言葉にできないものが必ずありますね。切なさやさみしさや不安、ナンマンダブツで泣くしかない。間に合うような人間になるのじゃなくって、如來さまによって、間に合わぬ自分が間に合せてもらうんです。

その父の口癖が「ロクロック」でした。「正信偈」に出てくる「顕示難行陸路苦」の「陸路苦(ろくろく)」です。

「ロクロック」には、ジャングルを逃げ惑った恐ろしい戦争体験が含まれていたんだと思います。

#### 母の念仏ー怒りの念仏

母は、爆心地から1・2kmしか離れていない長崎市の茂里町で被爆し、なんとか生き延びた人でした。母も念仏者でしたが、母の念仏は怒りの念仏でした。

「神も仏もあるものか! なんまんだぶつ!」と。それくらいすごいところで生きてきたんだはないかと思ひます。

この二人が出会います。そして、この私が生まれたんですね。すごい命を賜ったんだなと、しみじみと思ひます。

#### あんたが聞かんば

昭和62年頃のことですが、長崎の駅前の「ぜに屋」(質屋)さんの2階で竹下哲先生が講座を始められました。その時、野母崎中学にいた私にも電話をくださり、遠慮する私に「あんたが聞かんばやろう!」と言っ

#### 海が川を引っ張っている

ある時、石川県鳥越のケアハウスにいた林暁宇先生をお訪ねしたら、窓の外のを海を見ながら「川は上から海に流れているように見えるかも知れないけれど、僕には、海が川を引っ張ってくださっているように見える」と仰られました。

私が仏さまの方に行っているのではなく、仏さまの大きな力でグイグイと私が引っ張られて

いるんですね。

### 障りなし

私は中国文学を学びたくて國學院大學に行きました。神道系の学校ですね。そのことで、もやもやしていた時、東井先生にお尋ねしたら、即座に「念仏者は、無碍の一道なり。そのいわれいかんとならば、信心の行者には、天神地祇も敬伏し、魔界外道も障碍することなし」(『歎異抄』)と、お答えくださいました。いろんな迷いとかがあつても障りになるものはない。「そのまま」ということをその時教えてもらいました。お念仏のはたらきというのは障碍するものなしなんです。

### しわがあるまま

いじめによつて傷ついた心、それは真つ白な紙がぐしゃぐしゃにされて捨てられたようなことですね。その紙を拾つて元に戻そうとしても、形は元に戻つても、しわはもう元に戻りませんね。心は筋肉のように鍛えられるものではない。ガラスのようにもろいものです。

同窓会などで、勇気をふるつて「あの時、いじめられて、き

つかった」と言ったら、「そうだったノー」と、思いを受け止めてくれずに、「なんで、そんな時、言うてくれんかったん」とか「知らなかった」と、自分を悪くないと正当化してしまう。それでは心のしわは元に戻りませんね。「そうだったノー」と一緒に泣いてくださる人がいて初めて、しわがあるまんま生きていけるのです。

### 苦悩の有情よ

いじめですが、みんな心にしわを抱えて生きているのでは

ないでしょうか。それなのに「まっすぐ生きよ」というのでは、きついですよ。人にはまっすぐできないものがあるということを大切に、しわのあるままに生きていくには、「苦悩の

有情をすてない」ところの如来さまのはたらきが必要なんです。「苦悩の有情よ」、ー「あなたもきつかね、悲しかね」と言うてくださる方がおられますので、泣いたり笑つたりして自由に生きていいと思ふんです。如来さまのひとりばたらきの中で生かさせてもらっているこ

### ミンダナオ子ども図書館へ古着等を発送



秋の彼岸会の時、ミンダナオ子ども図書館へ送る「古着・おもちゃ・靴・靴・文具・食器など」をお願いしましたが、おかげさまで、本堂いっぱいになるほど集まりました。また送料のカンパも頂きました。有り難うございました。ミンダナオへの発送作業は、11月22日に、インターシップ(職場体験)で勝福寺に来てくれた宇佐産業科学高校のビジネス管理科の生徒たちにも協力してもらい箱詰め作業をしました。フィリピンまでは船便なので到着は来年になる

とお伝えして終わらせていただきます。なんまんだぶつ

### 聞き書き担当者感想

「如来さまは一切衆生を憐んで下さっていると聞かしていただき、もったいない気持ちでいっぱいです。」常念仏の先生に見習いたいです。(植山さよ子)



先生のご法話をYouTubeにUPしてます。ぜひお聞き下さい。

今後この活動を続けるので、かわらぬご支援をお願いします。



### 宇佐産業科学高校二年生インターシップ来訪

〈みんなのお家〉(地域おこしのボランティア団体)が行っている地方創生会議のご縁で、宇佐産業科学高校ビジネス管理科二年生の生徒さんが、インターシップで、勝福寺に一日体験に来てくれました。

職場体験といつても、お坊さんのマネはできませんので、午前中は、仏具のおみがきと、精進料理ということで「団子汁」作りをしました。午後はミンダナオ子ども図書館へ送るための古着等の箱詰め作業をしてもらいました。

一人が体調不良で欠席したため二人だけの参加でしたが、お迎えした私たちを若返らせてくれました。

お二人さん、有り難う!



# ご門徒さんこんにちは！ 第二十二回

今回は豊川に住む中園和利さんご夫婦をお訪ねしました。

## 三代続くご縁

和利さんとキミヨさんご夫婦の仲人は亡くなった老院さんご夫婦です。その老院さん達の仲人は奥さんの祖父である広崎嘉十郎さんです。そして中園さんの長男の仲人は知道住職ご夫婦が務めたという勝福寺ととても縁の深いお二人です。

## 共に信心深い家庭

中園和利さんは昭和11年12月生まれで85才になります。四日市の横町で明治時代から商売を営み、手広く商売をしていた中園肥料店の4人兄妹の2番目で次男として生まれました。

父親は学生時代の怪我のため無理が出来なく、和利さんが高校3年生の時に亡くなりました。そのため、商売は母親と兄が中心になってやっています。

母親は玖珠のお寺の出身で、その母親は「嘆仏偈」の最後

縁者が東京で会社を立ち上げるのでその手伝いをするため、昭和41年に惜しまれつつ29歳で退職しました。

の言葉「忍終不悔」（忍びて終に悔いなし）を生活の指針にするような謹厳で宗教心の篤い方でした。

奥さんのキミヨさんは和利さんより8歳年下の77歳です。奥さんは旧制中学の教師をしていた父親が亡くなって3ヶ月後に生まれました。そのた

## お仏壇のない生活は 考えられません

中園和利・キミヨ（豊川）

め母親の実家がある豊川で祖母と一緒に暮らしました。その祖父は広崎嘉十郎とい、終戦後、勝福寺の総代長を長く務められた方で、とても厳格で宗教心の篤い方でした。

## 才能が開花

和利さんは高校を卒業すると海上保安学校に入学します。卒業後は海上保安庁の北海道本部がある小樽で電波通信関係の仕事に従事しました。前途を嘱望されていましたが、

退職後、和利さんは東京に行くためにひとまず四日市に帰ってみると、店は戦後の農村機械ブームで兄の農機具部門は大分にあつた大手メーカーと合併し、兄は社長になり店を離れるので、四日市に残る肥料店と修理工場を見る人が居なくなりまし

た。ちょうど帰ってきた和利さんがその責任者にさせられ、出るに出入れなくなりました。

その後、兄が大手メーカーと分かれて元の中園肥料店に戻ると、和利さんは農業機械整備の経験を活かし、産業機械の仕事もするようになり、取引先の一つに三和酒類がありました。

## 33年間続いたご縁

昭和53年に三和酒類が焼酎製造を始めると、中園さんは

工場の機械修理や整備を任せられます。

そして焼酎が売れ出し、会社が大きくなくなってからも機械整備だけに留まらず、焼酎の飼料化まで委託され、平成23年に三和酒類が飼料の生産を停止するまでの33年間（中園さんが75歳）三和酒類と共に過ごしました。

## 親鸞聖人との出会い



和利さんと話をすると、その博識に敬服すると共に信仰心に頭が下がります。和利さんが親鸞聖人の教えに出遇われたのは、40歳の時にテニス

の選手でもあった和利さんが、現在、佐藤第二病院の院長である田畑正久先生のテニスの相手をしたことから始まります。以来、聞法会で細川巖先生や田畑先生の教えをずっと聴聞すると共に、和利さんは時間があると仏典やいろんな分野の本を読む生活を続けてきました。

## 信仰をつなぐ

「和利さんにとってお念仏

とは」とお尋ねすると、「お仏壇のない生活は考えられない」と即答なさいました。次に若い人へのメッセージをお願いと「宗教はパワーをもらうようなものでもない。私がお念仏に出遇ったのは40歳の時でした。もう10年早く教えに出遇いたかった。だから若い人に「30代で仏典や教えに出遇えたらきつと人生が変わる、豊かになるよ」と伝えたいです」と語ってくれました。

キミヨさんも、毎月のお母さんのご命日には炊き込みご飯を必ず炊いて、仏縁の方に配っているような篤信家です。

現在ご夫婦は中原に二世住宅を建てられ、長男夫婦と一緒に住まわれています。その家で3人のお孫さんと一緒に「正信偈」をあげていますが、大きくなるにつれ一緒に仏壇の前に座る回数が少なくなつたそうです。「やはり中学まで、ですわ」と少し残念そうな和利さんでした。

でも信心深いご夫婦の姿を見て育つたお孫さんに、教えはきつと伝わっていますよ。どうぞいつまでもお元気で。

（文責 渡辺重昭）

ちよつと、お邪魔します！



今回は、東院内地区のお世話を  
して下さっている小林聖さん  
(76歳)です。小林さんは、身近  
なことを丁寧丁寧にあつかっ  
ておられる方でした。

◆ご家族は：

今は、妻と二人です。  
大分で働いていましたが、  
父母の介護のために、定  
年前に退職して帰ってき  
ました。

◆お子さんは：

行橋と大分にいます。

◆お孫さんは：

それぞれに二人ずつ。両  
方とも共働きのため、休  
みの日などは孫の世話に、  
行橋、大分へと15年ほど  
行っています。

◆大変ですね。

子どもたちの生活を守る  
ためにと、自分のことより  
孫の世話を優先した生活  
です。

◆日頃の生活は：

小さい畑で野菜などを作っ  
たりしています。

◆地域のことは：

「出来る人が、出来ない

◆お寺のお世話も：

前の総代の南さんから頼  
まれたので、お引き受け  
しました。配りものなど  
はお顔を見て直接、手渡  
すようにしています。

◆お寺の感想は：

みんなの「正信偈」の声を  
聞き、違う世界に来たよ  
うに戸惑いました。

◆しかし、一昨年、勝福寺

の御遠忌記念でご本山に  
お参りしてからは違和感  
がなくなりましたね。

◆仏法を聞いた感想は：

「我執」ということを教え  
られました。もつと早く  
知っていたら、会社でも  
若い人に違った対応が出  
来ただろうにと、反省し

ています。

◆子や孫の心配は：

先のことは分かりません  
から、今、自分が出来る  
ことをしてあげよう、と  
思っています。

往生

第3回

生活の中の仏教用語

「今日は、渋滞に巻き込ま  
れて往生した」「あの人は  
大往生だった」など、「往  
生」という言葉はいろいろ  
な意味に使われています。

広辞苑を引くと ①この  
世を去って他の世界に生ま  
れ変わる事 ②死ぬこと  
③どうにもしようがなくな  
ること、あります。

しかし、この言葉は仏教  
の本質に関わる重要な言葉  
で、「往生」とは、ある方  
向に向かっていくこと、

「往(おう)」「(方向)で  
あり、また何らかのあり方  
(世界)に入っていくこと、

「生(じょう)」「でありま  
す。生きる方向と生まれる

◆子や孫への願いは？

健康でいて欲しいですね。



カリン

世界を内容にした歩みと申  
せましょう。

では、私たちはいかなる  
方向に生き、いかなる世界  
に生まれていこうとしてい  
るのでしようか。その問い  
に対して決定的な答えを出  
されたのが釈尊でした。

人間は、実はみな等しく、  
お念仏を申すなかで、阿  
弥陀さまのお浄土に召さ  
れて生きていき、その世  
界に生まれるのです。

これが往生浄土のご説法  
です。生まれる世界と生き  
る方向とが、阿弥陀の浄土  
として彼方より開かれてま  
いったのです。それは帰る  
べき故郷であります。

道ここにあり。

我、この道を歩まん。

『暮らしのなかの仏教語』  
(大江憲成著) から一部を引  
用させていただきました。

写真館



響流句会・吟行



三俣山登頂



上町有志・堀の清掃



信・風・楽 帰省



宇佐市美展「月光」

勝福寺

# 報恩講



みんなで  
報恩講を  
お迎えしましょう  
一緒に参ろうえ！  
そうしようえ！

コロナ感染第五波が急速な勢いで収まって、ほっとしている暇もなくオミクロンという変異株が出てきました。法要や聞法会があるたびに、クラスターがでないように心配しながら、おそろのおそろ開催してきましたが、真宗門徒のいのちとして一番大事にしてきた報恩講が近づいてきました。

ご恩おもえばみなご恩  
才市もご恩でできました

と、お念仏を喜んだ妙好人の浅原才市さんは、どの詩にも

ごおんうれしや  
なむあみだぶつ

と、うたっています。

蓮如様は、

ご恩を知らざるものは、木石にことならんものか。

と、いましめられました。「ご恩を知る」ということは人間だけにある一番幸せな大事なことであり、この人世を渡っていく根源力であるでしょう。

親鸞聖人ほど深くご恩を知り、ご恩に生かされて生ききった人があるでしょうか。報恩講はその聖人をお慕いし、出会い、教えにあずかる仏事です。多くの同朋と共に、お念仏を申しつつ、如来の大悲心をお聞かせいただく尊い時を迎えたいものですね。

左記の予定で報恩講を勤めたいと思っております。感染状況によつては変更するかも知れませんが、最終的にはご案内を見てください。

### 報恩講日時 (予定)

一月二十一日 (金)  
二十三日 (日)

### 法話

二十一日 住職  
二十一日・二十三日

太田浩史先生

### 講題

「聖徳太子と親鸞聖人」

### 報恩講準備

お磨き・お華束つき  
18日13時半  
お華立て・お華束盛り  
19日13時半



### 編集後記

★ 毎号題材が豊富で、削るのが惜しいくらいです。ぜひ読んで、仏法が生活にしみこみますように。(純子)

★ 鍵主先生の「雪の報恩講」から、はや六年です。雪国から太田先生をお迎えする今年の報恩講を楽しみにしています。(和義)

★ 行き詰まって、答えをつかもうと、いよいよ行き詰まって、なんもかんも、苦も忘れる81歳のこの身。歳を取るのもいいもんです。ナンマンダブツと自然におまかせするばかり。一生聞法です。(香田)

★ 私の申していた念仏は「頭の中の念仏」であることに、ようやく気づくことができました。聖人の「ただ念仏」を憶念していきます。(知道)

★ 何にもできない私ですが、お念仏を忘れずにします。ナンマンダブツ (知代)

★ インタビューでお話を伺うたびに感じるのは、みなさん年齢を感じさせない若々しさです。今回も中園さんのお歳を聞いてびっくりしました。やはり物事に対する探究心が大切なんです。(重昭)